【経済政策をも縛る地域格差問題の本質】

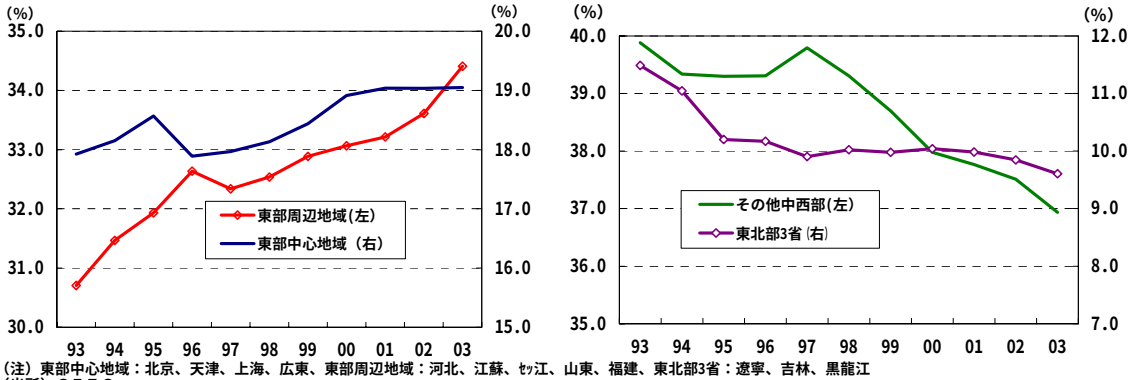
2004 年 6 月 30 日　鈴木貴元　研究員

今週のトピックス　～　出遅れる東北部・中西部の経済発展

春先以降、投資過熱に対する警戒感が強まっていたが、4、5 月の投資実績に鈍化の兆しが見られたことから、警戒感は幾分和らいでいる。しかしその一方で早くも、引き締め策が景気を過度に冷やしてしまうと懸念する見方も出ている。これは中国経済が過去ローラーコースターのように浮き沈みが激しかったためもあるが、地方経済が財政に依存しない自立的な拡大を実現していないためであろう。

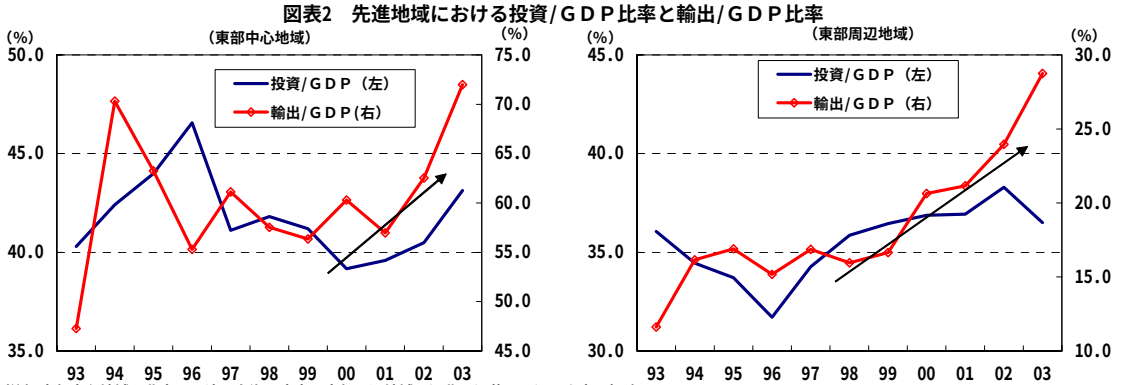
図表１は、ＧＤＰに占める各地域のウエイトを示したものだが、東部中心地域が緩やかに、東部周辺地域はハイテンポで上昇しているのに対し、東北部 3 省、その他中西部はウエイトが大幅

図表1　ＧＤＰに占める各地域のウエイト



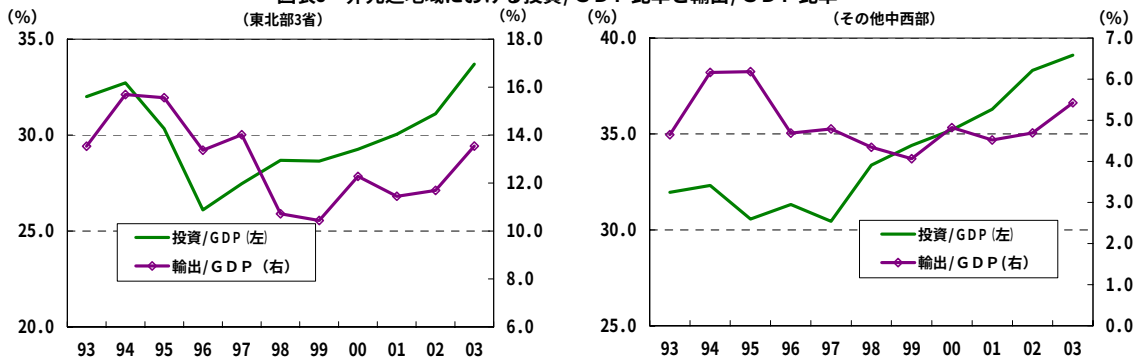
(注) 東部中心地域：北京、天津、上海、広東、東部周辺地域：河北、江蘇、ｾﾂ江、山東、福建、東北部3省：遼寧、吉林、黒龍江
(出所) ＣＥＩＣ

図表2　先進地域における投資/ＧＤＰ比率と輸出/ＧＤＰ比率



(注) 東部中心地域：北京、天津、上海、広東、東部周辺地域：河北、江蘇、ｾﾂ江、山東、福建
2003年の投資はＧＤＰ統計ベースではなく、全社会固定資産投資ベース
(出所) ＣＥＩＣ

図表3　非先進地域における投資/ＧＤＰ比率と輸出/ＧＤＰ比率



(注) 東北部3省：遼寧、吉林、黒龍江
2003年の投資はＧＤＰ統計ベースではなく、全社会固定資産投資ベース
(出所) ＣＥＩＣ

に低下し、それぞれ 10%を割り込む水準まで落ち込んでいる（図表 1)。

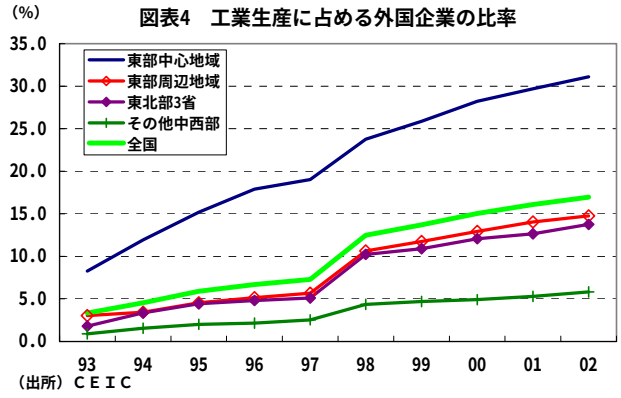
中国経済のけん引役と言われる投資と輸出は、東部中心地域では投資、輸出ともにＧＤＰに対する比率が 40%を超えており、まさにけん引役を果たしている（図表 2)。しかし、東北部 3 省では投資のＧＤＰに対する比率が高まっているとはいえ 35%を下回り、輸出のＧＤＰに対する比率も、中国最大の石油の産地である黒龍江省や、やはり最大の自動車の産地である吉林省、第 3 位の鉄鋼の産地である遼寧省を有しているにもかかわらず 15%以下と低い（図表 3)。その他中西部では、西部大開発により、投資のＧＤＰに対する比率こそ 2003 年に東部中心地域を抜いたが、輸出の比率はわずか５％台にとどまった。ＧＤＰ統計ベースで見た純輸出の黒字は、2002 年、全国では 3100 億元の黒字であったが、その他中西部では 1410 億元の赤字であった。

こうした状況下で引き締め政策の対象が全体にまで拡大されれば、引き締め効果が地方に強く出かねない。東部と東北部、中西部の格差が拡大している中では、経済政策は、業種毎、投資規模毎などの個別的な窓口指導に頼らざるを得ないのである。

～　東北部振興の成否は「質の経済」への転換の試金石

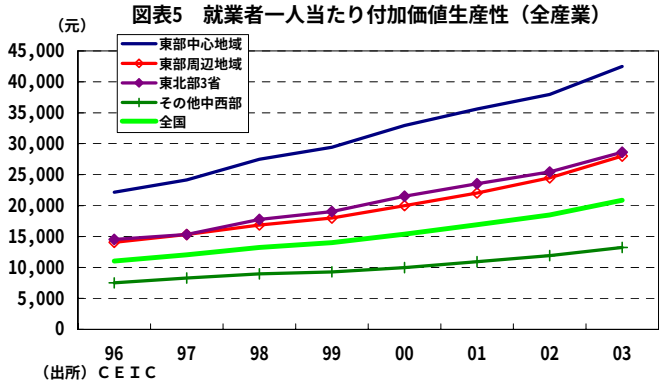
東北部の課題は、外国企業の誘致による地場産業の活性化にあるとよく言われる。しかし、工業生産に占める外国企業の比率は、実は、成長が著しい東部周辺地域と東北部でほとんど差がない（図表 4)。一人当たり生産性も同様である（図表 5)。つまり、外国企業による生産性向上が最大の成功要因というわけではないのだ。東部周辺地域と東北部の最も大きな違いは、東部周辺地域では、売上が価格に左右されやすい消費財を主に作っているのに対し、東北部では、品質が重視される自動車や工作機械など高価な耐久財や資本財を主に作っているところにある。また、東北部への外資企業の誘致は自然環境の問題などから大連､瀋陽を除くと容易ではないとみられる。つまり東北部振興はかなりの部分を自力で進めなければならないということである。「質」が問われる東北部の産業が、「量」で勝負してきた東部並みの成功を収められるか。中国の本当の力が試されているのではないだろうか。

図表4　工業生産に占める外国企業の比率



（出所）ＣＥＩＣ

図表5　就業者一人当たり付加価値生産性（全産業）



（出所）ＣＥＩＣ